

第 13 回議会運営委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 2 年 9 月 24 日（木曜） 午後 1 時 30 分 開会		
	休 憩 14:25-14:35、		
	午後 2 時 5 9 分 閉会		
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室		
出席委員 氏 名	委員長 梶澤 幸治	委員 立川 美穂	
	副委員長 中村 和宏	委員 渡辺洋一郎	
	委員 正村紀美子	委員 常通 直人	
	委員 鈴木 健充		議長 早苗 豊
欠席委員 氏 名			
説明等に 出席した 者の氏名			
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	総務係長 佐藤 史彦	主査 上田 瑞紀

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

- ・委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 調査事項

- ア 議会だより 10月号の編集について
- イ 議会活動評価その2について

当日資料1

資料1

3 その他

- (1) 次回委員会の開催日程（予定）について
- (2) その他

2 議 件 (1) 調査事項

- ア 議会だより 10月号の編集について

当日資料1

- ・正村委員：資料説明。
- ・委員長：この時点での質疑、意見は。
- ・常通委員：仕立ては理解するが、モニターの声、ホットボイスなどのデータは、印刷業者の方に送っているのか。
- ・正村委員：写真・データ等はこれからの作業になる。次回議運にはお示しできるようにしたい。
- ・委員長：担当委員中心に編集作業を進めるように。

- ・総務係長：資料説明。
- ・委員長：まず、評価のその1、アンケートについて来年度も実施するのかどうかを協議したい。
- ・委員長：今回は無作為抽出でのアンケートであったが、終了後、項目などについても感想を持たれたと思う。毎年実施もあるし、隔年などもありえるが。
- ・正村委員：今年度実施したアンケート内容の分析もしたが、改善策も現在取り組んでいる最中であり、出そろっていない状況。その中で、来年度のアンケートを行うということにはならないのではないかと。改善策を実施して、その結果を町民に示して、改めて実施することが良いのではないかと。
- ・委員長：前回の委員会でも、最後にアンケート結果についての議運まとめを示したところであるが、この点は、全協を通じて報告しなくてはならない。今の意見、分析からの目指す姿をしっかりとやらないといけないことを考えると意見の通りかとも思うが。
- ・常通委員：今回のアンケートで分かったこともあった。アンケートは継続すべきと考えるが、毎年ではなく、アンケートの検証、次期の内容など検討して、隔年で実施していくようなことが良い。
- ・中村委員：お2人と同様の意見。アンケート評価について改善すべき点が多々あると思うが、特に議会だよりについては検討する必要がある。ある程度の認識度がある中で、どのような議会だよりにしていくか議論が必要である。来年度は、改善策の検討を行うこと。
- ・鈴木委員：毎年というのは作業的にも、中身の精査も考えるとタイトな日程、中身になってしまうので、きちんと内容を精査し、隔年でなくとも、年数を空けても、一つひとつ解決していくようなやり方で良い。
- ・委員長：4人の意見では、アンケートの重要性を認識していること、継続は必要であること。ただ、毎年ではなく、今回の結果について、検討をしっかりと、次の議会運営に活かして、次のアンケートということであったかと思うが。
- ・渡辺委員：無作為抽出の結果の分析は議会だよりでもお知らせしてきた。継続する必要があるとは思いますが、間を空けることで滞ってしまわないかという懸念がある。無作為抽出であるので、毎年答える方は違ってくるし、継続することで知ってもらうこともあり、毎年やることに意味があるのではないかと。1回目のアンケートで分析して改善もしていき、実施しながら、次のアンケートを行っていくようなことで、毎年やっても良い。
- ・立川委員：双方、納得する点がある。ただ、いただいた課題を解決できないこともある。毎年繰り返すことで、議会の認知度を高めることもある。アンケート実施から分析までのサイクルをうまく回すことも考える必要があるし、毎年実施しても良いと考える。
- ・委員長：毎年行うとしたときに、今後はどうしていくのか。同じ項目なのか、精査して変えていくのか。
- ・立川委員：大きく変える必要はない。町は力を入れた政策についての変更などはあ

るようであるが、今回の議会のアンケートでは、意見を精査しながら、検討の中ではこうすべきだったなど、機微な修正を加えながらも、大きく内容を変えなくても良い。

- ・渡辺委員：議会活動を知っていただくことになるので、項目を大きく変える必要はない。
- ・委員長：認知度向上という意見があった。アンケートをとった後に、その結果をどう検証して、議会運営に反映するかということが重要。まとめだけでなく、今後どうしていくかということが大事。結果を更に磨き上げて反映することが目的である。アンケート、集計、分析、実施という流れ全体を考えなくてはいけない。今回実施したアンケートを土台に議論をしていかななくてはならないが、その議論の中で、次のアンケート、ということになるような意見もあったが。
- ・中村委員：前回アンケートでは多様な世代からの答えがあった。大きな社会変化がない限り、来年実施しても大きな変化はないのではないか。発展的なアンケートを行うためには、中身を詰めて行わなければ。1年の間隔は必要と思う。
- ・委員長：来年実施するなら、今から項目を考えなくてはならない。時間もかかる。どちらを優先するかではなく、今回の結果を受けて議会がどう動くかということが大事と考えるが。
- ・鈴木委員：大事なのは目的。結果を踏まえて、議会に反映できるような、中身を示せるような、政策に結び付けるようなことが大事。同じ項目でずっといくということは、統計的な数字を求めるなら毎年も意味があるが、町民の方々にアンケートをもって、何を考え、何を言いたいのかを得ることであるので、中身が重要となってくる。
- ・渡辺委員：中身の精査は大切と思う。もともとは諮問会議からの答申であるが、今回のアンケート目的は2つで、認識度を高めることと、関心を持つ町民層を増やすことであった。であれば、また少し違うのかなと。次に行おうとしている、特定の町民等というところでは、また違った意見ももらえるとは思いますが、認識度を高めることと、関心を持つ町民層を増やすのであれば、毎年行うメリットが大きいのではないかと思う。
- ・委員長：アンケートの目的についての意見であったが、町民の現状把握が、アンケートの目的であった。その結果から、活動の内容を変えて、それをしっかり実施して、認識度を上げることが本来ではないか。まずは、議会が行っている活動にたいして興味関心を持ってくれるかということが、アンケートの目的ではないか。今回の結果を議会だよりで反映することがしっかりとやるべきことかと思うが。
- ・立川委員：確認であるが、最初取り掛かったさいには、渡辺委員の意見のようなことが目的であったはず。実施して、分析して、次回行う時には、この目的が変わったという認識を持てばよいのか、少し混乱している。このアンケートの目的は、変わっていくということなのか。
- ・委員長：来年やるということではないが。
- ・立川委員：次回のアンケートは、ということである。
- ・委員長：変わっているというところではなく基本は全く同じである。今回の結果を受

けて議会運営に反映しなくてはならない。

- ・立川委員：結果を受けて改善するのは分かるが、次のアンケートの目的は、さらにステップアップをするような目的になるのか。
- ・常津委員：アンケートについては、そのあたりも含めて、検討をしていくのが筋ではないか。1年間は検討期間として、内容も精査していくような。現状では継続していくには、時間が足りないと考える。
- ・立川委員：アンケートを実施する目的が争点になっていると思う。この2つの目的をこれからも、アンケートの目的としていくのなら毎年の継続も良いし、今回だけの目的ということであれば、じっくり精査するのは納得できる。そこを確認できればと。
- ・委員長：目的はずっとこの目的であると考えている。
- ・立川委員：それでよい。ならば、毎年の継続も良いのではないか。
- ・委員長：確認である。議運として、優先順位の問題があると思うが、アンケート結果を議会運営に繋げることが重要である。アンケートをすることも重要であるが、結果を、議会活動に反映していくことが必要。現時点ではアンケート結果から成果に繋げているものは一つもありません。今後となっている。
- ・中村委員：目的は同じで良いと思う。さらに違う設問があっても良い。毎年できるならやっても良いが、宿題をもってしまった。その整理の時間が必要ではないかと考える。それが終わった段階で、そのときにどうする、町民に問いかけてみようかなど、次の設問に繋がることもある。初めてやったことでもあり時間がほしい面もある。
- ・正村委員：目的のところ。先ほど、中村委員が言われたことだし、共通と思う。今もらったアンケート結果をどうしていくのかということを中心にきちんとしていきたい。それを次の時には、やったことを、町民に見てもらえるようなことにしていきたい。分析によってプラスアルファにもなる。
- ・渡辺委員：改善策は優先事項と思う。ただ、同時に関心層を増やすことは行っていくべきと思う。
- ・委員長：アンケートを実施して認識度を高めるのか、ツールを変えて関心層を増やすのか、どちらも大事だが、どちらをとるのか。
- ・立川委員：今話しているのが、アンケートの実施目的であり、毎年実施するかということであった。端的にいうと、2つの目的であるならば、毎年実施していくべきという主張である。ただ、結果から改善策を出していくことは必要なことであるが、目的達成のためには毎年実施すべきという意見である。
- ・委員長：改めて意見を。議論になっているのがアンケートの実施である。今回の結果を精査してから実施すべきという意見、毎年行うべきという意見、それぞれある。目的からして非常に有効な手法であるが、意義あるものにしたいので、大切な議論であると思う。来年度に向けて、あるべきアンケートのあり方の議論も必要ではないか。
- ・中村委員：アンケートは、早期に改善され、形も変わって町民に問いかけるようなことになれば1年後でも良いが、そこまでの状態ではない。準備ができた段階で

アンケートを行うようなことで。

- ・渡辺委員：今回の外部評価手法としての無作為抽出でのアンケートは、目的に沿って実施したという点では、意義があったし大切なことであった。意見を聴いて、改善策を示しつつ、アンケートも単発ではなく認識度を高める、関心層を増やすという数値を知るためにも毎年行うべきとは思いますが、一方で、分析等で時間を要する面もあるし、改善策を集中的にやっていくことも考えると、次回アンケートは適切な時期に実施できればと。
- ・立川委員：アンケートを定例化するには、アンケートから分析までの期間を設定してサイクルを設定すべきと。実際には、他の課題もあるので、よりやりやすい手法で実施できればと考える。
- ・委員長：最終的には、まずは今年度実施したアンケート結果をしっかりと反映すること。また次回アンケートについて適切な時期ということであるが、今後の検証の中で、項目含めて議論もしながら進めて行ければと。
- ・委員長：次に、活動評価その2について。評価と運用の時期について。まずは資料上段のスケジュールについて意見を。
- ・委員長：外部の協力は11月をめどに依頼をしていきたいと思う。また、資料中の来年1月から6月までの手法・評価項目検討は、今後検討をしていけたらと。また、評価と運用の時期の方向性を決めることができたらと思う。この表で、分からない点があれば聞いていただきたいが。
- ・正村委員：評価と運用の段階であるが、現任期で改善策を作成することで進めるのが良い。改善策をきちんと見える形にして、改善策を提示するまでが、一つの責任である。議会の継続性もある。
- ・渡辺委員：②の現任期で改善策を作成する、が望ましい。今の任期で取り組んでいくことなので、改善策を出すまでが役割である。
- ・立川委員：私も同様。前期から引き継いだ政策もあったが、流れが理解できない部分もあった。現任期で改善策を出すまでが必要。
- ・常通委員：私も②現任期で改善策を作成する、が良い。しっかりと取り組んで、次の方にお任せすることが良い。
- ・鈴木委員：私も今期中で終わらせるのがベスト。
- ・中村委員：私も②現任期で改善策を作成するに賛成。
- ・委員長：では、②現任期で改善策を作成する方向ですすめることとする。次に、評価者についてであるが、検討の中で出てくる考えもあるし、今の段階でしっかりと定めるかどうか、意見をいただきたい。
- ・委員長：現時点で決めなくても、今後の検討の中でもいろいろとアイディアが出てくることもあることから、今後進める中で決めていくこととしていきたい。この議案については、ここまでとしたい。今後はMTなども活用しながら進めたい。

3 その他

(1) 次回の委員会開催日程について

- ・正副委員長一任

(2) その他

① 9月定例会議の振り返りについて

- ・委員長：委員長から、両常任委員長に、各委員会での振り返りを促す。

- ・議長：議会活評価について議論をいただいた。一定の方向が出たのかなど。これまでも議会として住民参加手法を採り入れて学んだことがたくさんあるし、理想と現実との狭間ですすまないこともある。今後、精力的に議論を深めて、住民の期待を裏切らないような活動に向けていただければと考える。

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和2年9月24日

議会運営委員会委員長 梶澤 幸治